日刊 動労千葉

83, 9, 29

No. 1454

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

座談会 5年間をふりかえって

ハンドル握って闘い続けた三里塚ジェット闘争

定期大会成功への職場討論の深化のために⑤

『日刊動労千葉』編集委員会は、十・五～六動労千葉第八回定期大会の大成功をかちとる立場から座談会を開催しました。

第一ブロックの「分離独立の闘い」につづいて、九月十四日におこなわれた第二ブロックの「三里塚ジェット闘争」をテーマとした座談会の要旨を報告します。定期大会成功への職場討議の深化と圧倒的傍聴をかちとろう。

Ⅱ 労農連帯の歴史的きずなをうち固めたジェット闘争

動労「本部」の敵対の中でのジェット闘争

（司　会）

十・五～六定期大会の成功にむけ、「五年間をふりかえって」というテーマで座談会をおこなっていきたいと思います。

先日の第一テーマ「分離独立のたたかい」につづいて、本日は実際にハンドルを握り、又、検査・検修部門でさまざまな困難をのりこえながら、き然として不屈の闘いを貫徹してきた当該佐倉、成田支部を中心に蘇我、銚子両支部、および本部からは教宣部の方々に集まっていただき、第二テーマ「5年間のジェット燃料貨車輸送阻止闘争」ということで進めていきたいと思います。

（〇さん）

七九年の闘いで一番怒りに感じたのは、動労「本部」の対応です。

例えば、われわれが全力で線見阻止を闘っている時に「水本」集会への全力動員をかけてくるとか、少くとも「ジェット燃料貨車輸送阻止」の方針は動労全国大会でとりくみを決定している方針であるのにもかかわらず、動労「本部」は何の指導も支援もしないで、限定された中でのたたかいだったですね。動労「本部」が当局の意を体して、動労千葉をつぶすための色んな策動があり、当時の佐倉の状況は士屋粋らが意図的に大衆的行動を抑え、色んな点で困難をかかえていました。

（Mさん）

一番大変だったのは八一・三闘争ですね。線見阻止から始まっていたんですが、佐倉の動労「本部」派が当局に「保護願い」を出して、当局が職制や公安でガードして乗務員を送ってくる中での闘いだったわけです。〝動労型労働運動〟とかいうものの破産した姿があの時の、当局の保護下におかれた労働者の姿ということではないかと思いますね。

身をていし先頭に立つ執行部、そのもとに支部全員が団結

（司　会）

職場のふん囲気はどうでしたか。

（Mさん）

連日、朝六時に動員して闘ったんですが、相当きつい闘いでしたが、皆、抵抗はなかったですね。

（Lさん）

執行部もかまえていた。組合事務所からも公安や権力によって排除された場合とか、パクられた場合の第二執行部体制も組んでいたから、組合員もわかっていたと思う。

ジェット闘争で一番苦労したのは「拒否から阻止へ」の戦術転換でした。全員で苦しみぬいてやっと立ち上っていった、その時のショックと組合不信みたいなものはずーと長らく職場では尾をひいていましたが、分離独立の闘いをやりぬく中でみんなすっきりとふっきれていったのではないかと思いますね。支部の執行部が先頭にたって闘い、支部全員がそのもとに団結して身をていして闘った。あの時、執行部が「本部」のオルグ団なんかに負けたり、あるいはあいまいな態度に終っていたとしたら、おそらく今日の成田は無かっただろう、と私は思います。

（以下、つづく）

81年2月、助役機関士を導入しての燃料輸送のための線見強行を阻止するため、連日、成田、佐倉での闘いが激しく闘いぬかれた。（成田駅ホーム）

座談会出席者

J 蘇我・機関士・39歳	N 佐倉・機関士・44歳
K 〃・〃・24歳	O 〃・〃・35歳
L 成田・車両検査係・39歳	P 銚子・電運士・36歳
M 〃・電運士・36歳	本部・教宣部

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！